



# 経済日誌

2024年12月15日～2025年1月14日の主な出来事



## 12.18 熊本空港から畜産物初輸出

国際便の新規就航が相次ぐ熊本空港を使った畜産物の輸出が17日、始まった。肉や畜産加工品の検疫を円滑に実施できる体制が整った。熊本県産の畜産物の輸出はこれまで他の空港を使った空路や海路に頼っており、熊本空港の利用で輸送コストを抑制できれば輸出活性化につながると期待される。

## 12.20 県が被災地復興新プラン

熊本県は19日、2020年7月豪雨で被災した地域の再生・発展の方向性を示す新たな「新時代共創復興プラン」を発表した。球磨川流域の「緑の流域治水」の推進と、産業・雇用の創出を2本柱に据え、より復興に軸足を置いた計画に移行。人が定住する持続可能な地域づくりを目指す。

## 12.21 くまもと版サイエンスパーク 2025年にビジョン

熊本県は20日、台湾積体回路製造（TSMC）の菊陽町進出を踏まえて検討を進めている「くまもと版サイエンスパーク」に関し、2025年末までに、どのような機能を持たせるかを含む「ビジョン」をまとめる意向を示した。ビジョンには、サイエンスパークの役割や機能、集積を期待する企業や研究機関のイメージが盛り込まれるとみられる。

## 12.25 県専業産出額、2023年全国5位

農林水産省が20日発表した2023年の全国の農業産出額によると、熊本県は前年比7.0%増の1兆7,000億円と、4年連続で増加した。コロナウイルス禍後の需要増を背景にした主要産品の価格上昇が要因とみられる。都道府県別では4年連続で全国5位、九州では前年と同じく2位だった。

## 12.28 TSMC熊本第1工場 量産開始

半導体受託生産世界最大手、台湾積体回路製造（TSMC）は27日、菊陽町の熊本第1工場で当初の計画通り、12月に製品の量産を始めたと明らかにした。官民で進める先端半導体の国内生産基盤づくりに向け、大きな節目を迎えた。日本国内で初となる第1工場は、回路線幅12～28ナノメートル（ナノは10億分の1）の演算用ロジック半導体を生産する。

## 1.1 県総合庁舎跡に高級ホテル

熊本県が熊本市中央区南千反畑町に所有する県熊本総合庁舎跡地に高級ホテルの誘致を検討していることが31日、分かった。世界中に顧客を持つハイブランドホテルを想定している。中心市街地に付加価値の高い宿泊施設が立地することで都市イメージの向上やインバウンド（訪日客）の拡大につなげる狙いがある。2025年度に事業者の選定を始め、2030年前後の開業を目指す。

## 1.8 熊本—北米線 県に打診

カナダ西部アルバータ州にあるエドモントン国際空港を運営する公団が、熊本空港（益城町）と結び航空路線の開設を熊本県に打診していることが7日、分かった。県側も前向きに受け止めており、実現すればアジア路線のみだった熊本空港で初の北米路線になる。まずはチャーター便を運航する方針で、需要と採算性を見極める。

以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方はこちらから](#)